

# 代表理事就任の挨拶

公益社団法人 日本防犯設備協会 代表理事 片岡 義篤



本年6月の通常総会で代表理事に選任されました片岡義篤です。私どもを取り巻く情勢の厳しさを考えますと、身の引き締まる思いが致しますとともに、代表理事としての責任を痛感しております。一方で、設立30周年という記念すべき年に就任したことに對し、大変光榮に思います。微力ではありますが、協会のため、防犯設備業界発展のため、ひいては国民生活の安全の確保に寄与するため、全力を尽くしてまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

最初に、本年4月に発生しました熊本地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。協会では、熊本、大分の両地域協会に對し、見舞金を支給させていただきましたが、更に熊本の被災地への防犯カメラの設置につきまして、多数の会員企業の皆様からご協力の申出をいただきました。最終的に3社の会員企業のご協力をいただくこととなりました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

さて私は、昭和52年に警察庁に入庁し、平成22年8月に退職しました。この間、警備、生安、管理部門を主に勤務してきました。退職後は、生命保険会社に5年半勤め、現在に至っております。

当協会の代表理事に就任して半年が経過しました。この間、各種会議や地域協会の全国大会等を通じ、あるいは協会の先輩諸氏の話などからいろいろと学ばせていただきました。まだまだ十分に実態把握ができていたとは言い難いのですが、折角の機会ですので当協会の抱えている当面の重要課題について、私の考え方や取り組み方針について申し上げたいと思います。

第1点は、防犯設備士の資格更新制度の確立についてです。

本制度は本年から開始しましたが、きちんとした制度として運用するためにはいくつかの解決しなければならない大きな課題があります。とりあえずは、知識更新テキストを使用しての更新を始めましたが、いずれは更新講習という形にし、各地域協会での実施を考えております。

そのためにはまず、地域協会の全県設立が必須です。全国にネットワークが形成されることは、わが業界の組織力や社会的影響力を示す大きな強みですが、残念ながら未だ9県でできていません。現状での実施が困難な地域協会への対応の問題もあります。至難な課題ではありますが、再度推進体制を建て直し、警察をはじめ関係者の方々と連携を取りながら、鋭意取り組んでまいります。地域協会での更新講習の実施は、地域協会の活性化や財政的基盤の確立にもつながります。

防犯設備士の資格取得者は約2万6千人おられますが、現在実際に活動されている人数など実態の把握は十分ではありません。知識やスキルのブラッシュアップを図ろうにも困難でした。しかし更新制度を取ることによって、その解決へ向けた第一歩を踏み出すことが出来ました。適切な管理がなされることによって、防犯設備士としてのレベルアップはもとより、地域協会や警察等との連携の容易化、拡充が可能となってきます。

もともと資格を更新される方は、意欲旺盛で熱心な方が多いと思います。協会は、講習やセミナー等を充

実し、タイムリーに各種情報を提供し、彼らの活動を社会に発信するなど、彼らの期待に応える必要があります。更新者のレベルが上がり、その輪が拡大強固になっていくものと思います。

講習方法につきましては、総合防犯設備士の活用を考えております。防犯設備士の指導育成に関する業務だからです。講習の講師として活動していただき、正に防犯のプロとして一層磨きをかけ、内外での活躍を期待します。

このように更新事業は、様々な面で相互にリンクしており、これを完璧に制度として運用できれば、協会にとって、設備業界にとって、大変大きな力となります。

もう1点は、社会的認知度の向上です。協会発足当時からの長年の課題と言われています。確かに、あまり一般に知られていないという意味ではそうかもしれませんが、今までの防犯設備の普及促進や警察と連携した様々な防犯活動など、その実績は評価されますし、誇れるものです。特に近年の防犯カメラの普及は目覚ましいものがあり、RBSS制度事業を行っている当協会の貢献は、極めて大きいものがあると思います。

認知度を上げるためには、華々しい活躍の場があるのであれば格別、通常はこうした平素からの地道な活動の積み上げと、継続的な広報の実施に尽きると思います。防犯設備という機軸、すなわち防犯設備士制度とRBSS制度という2つの制度事業を核として、警察、自治体、防犯関係者、団体等にしっかりと情報発信し、その輪を地域住民や国民一般にまで広げていくことが重要なのです。そのためには、広報体制・活動の充実強化が必要です。一時協会事業が厳しかったため、やむを得ず縮小した広報体制等を復活、強化したいと考えております。防犯設備士、RBSSという当協会の根幹をなす事業をもっともっと社会に訴えていきましょう。そしていかに我々の業界が社会に貢献しているかを示しましょう。

以上、私の考えの一端を申し上げました。困難な課題も多いのですが、私は、それほど悲観的に考えておりません。当協会の発足の経緯(自発的設立)や30年間の実績を考えたとき、その底力は大変大きいものがあると感じています。このことは私に明るい未来を強く確信させてくれるものであります。当協会の責任者として、これから会員の皆様、地域協会の皆様等と一緒に、警察庁をはじめ都道府県警察、関係機関・団体等のご指導ご協力をいただきながら、与えられた責務を果たしてまいりたいと思います。皆様のご協力、ご支援を心からお願いいたしまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。